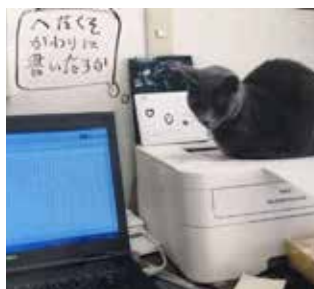


菊野啓さん 小説「金の顔」 幻冬舎 第3回小説コンテスト大賞受賞



著者近影



徳島文学協会の理事を務める菊野啓さんが、小説「金の顔」で幻冬舎第3回小説コンテスト大賞を受賞した。作品は、昭和四十年代の農村を舞台に、貧乏農家で育った主人公が様々な体験によって人生観を形成していく過程が描かれる。受賞作は幻冬舎から電子書籍化され、単行本も発売される。

作品についての詳細
(幻冬舎ホームページ)
<https://www.gentosha-book.com/contest19/novel3/>

小説というじぶんごと

菊野啓

長いあいだ、誰にも読まれない小説をパソコンの肥やしにしてきた。それが昨年、某出版社の小さなコンテストに入賞して、『邪眼』という電子書籍を出版してもらったところ、思いのほか、あちこちから御意見を頂戴することができた。読むに堪えないという手厳しい叱責から、とても面白かったという激励まで色々で、じぶんごとでしかなかった小説がよかれ悪しかれ他人事になったのだな、とよろこぶ一方で、ちよつと怖くなったりもした。なぜ小説を書くのか？ とはいつも自問することだが、これか、と思えてきた。誤解を怖れずに言うと、自分の吐いたゲロを見も知らぬ他人があれこれと品評してくれている、この快感、表現する者だけの特権ではあるまいか。とは言え、何を書くかが一大事であり、心の痛みを知る人が傷ついた人のために書くのが文学だとしたら、私の小説はその点において致命的であるかもしれない。なぜなら、告白すると私はサイコパスだからである(笑)。そして、今回また似たような経緯で、『金の顔』という小説が近く出版の運びとなった。サイコパスの書くハチャメチャなエログロ小説、あなたは読みたいですか？

原英さん 北斗賞佳作 俳句「地球で死ぬだろう」

徳島文学協会会員

原英さんの俳句

「地球で死ぬだろう」

百五十句が、俳句の

新人作家の登竜門と

いわれる「第十回北斗賞」の佳作に選ばれた。「俳句界一月号」にて選考結果が発表されている。



原英さん

付録

原英

先日マジックの本を買った。付録のトランプが欲しかったのだ。それでも一応読んで習得した技術がある。指をパチンと鳴らすあれだ。マジックに必須の技術とあったので練習しようとしたら一回でできた。昔友達か鳴らしているのを見て練習したけど全くできなかった。口笛だって長いこと吹けなかった。それらは披露するつもりもなく、できたらいいなという程度だった。俳句を始めた頃もそんな気分だったのに、なぜいま俳句にはまっているのか分からない。明日はどうだろう。

夜二月二十九日の enter 押す

阿波しらすぎ文学賞

主催 徳島新聞社・徳島文学協会

徳島文学協会と徳島新聞社が主催する「阿波しらすぎ文学賞」の応募が本年もスタートした。今回から、芥川賞作家の吉村萬吉氏に加え、小山田浩子氏を新たに最終選考委員に迎え、Eメールでの応募も可能となった。

例年通り、名所や産業、伝統文化など徳島ゆかりの要素を入れて、原稿用紙十五枚以内の掌編小説を執筆してもらう。締め切りは六月十日、受賞作の発表は八月を予定している。また九月にはスペシャルゲストを招いての授賞式も計画されている。

創設当初より最終選考委員長を務めていただいた吉村萬吉氏が、「ありきたりな賞にはしない」というコンセプトで、単なる地方賛美ではない本格的な文学賞を目指してスタートした。

その結果、第一回の受賞者の大滝瓶太氏、第二回の受賞者佐川

恭一氏ともこの賞の受賞を足掛かりに作家としてのデビューを果たしている。そういう意味では「阿波しらすぎ文学賞」は地方文学賞としては他に類を見ない「本物の文学賞」として全国から注目されている。

第一回は四二二作品、第二回は四二六作品と全国から多数の応募をいただいた。第三回は小山田浩子さんの最終選考委員加入や、Eメールでの応募など新たな試みもあり、これまでを超える作品が集まることが予想される。

「阿波しらすぎ文学賞」は賞金三十万円の大賞の他、徳島ゆかりの応募者から選ばれる徳島新聞賞（賞金十万円）、また二十五歳以下の応募者から選ばれる徳島文学協会賞（賞金三万円）もある。

小説を初めて書く人にとっても十五枚という分量は執筆可能な分量であるだろうし、執筆している人々には絶好の力試しの機会となるに違いない。ぜひ徳島文学協会の会員からも多数の応募を期待している。

徳島文学協会会長

佐々木義登

徳島新聞 阿波しらすぎ文学賞

作品募集

◆募集対象

日本語で書かれた広義の小説作品

※インターネットも含め未発表作品に限る。

※徳島ゆかりの地域や文化歴史、産業、人物などを作中に登場させること。

◆募集資格

広く全国から募集

※年齢・性別・職業・国籍は問わない

◆原稿枚数

四百字詰の原稿用紙に十五枚以内

◆原稿書式

縦書きを原則とする

※パソコン・ワープロ原稿の場合は四百字詰原稿用紙での換算枚数を明記すること。

※表紙にタイトル・住所（徳島出身で県外在住の方はその旨記載）・氏名（ペンネームの場合は本名も）・年齢（生年月日）・職業・電話番号（あれば携帯電話も）を書き、作品にはページ番号をつけて右肩をホッチキスで綴じること。

※応募は一人一編。

◆募集締切

二〇二〇年六月十日

当日消印有効

※応募作品の変更、訂正、差し替え、返却は不可

◆応募先の宛先

【郵送】

〒七七〇八五七二

徳島新聞社事業部

阿波しらすぎ文学賞係

【メール】

awashirasagi.bungakusho

@topics.or.jp

※原稿はテキスト形式またはワードデータ(docx)を添付

◆賞金

阿波しらすぎ文学賞

三十万円

徳島新聞賞 十万円

徳島文学協会賞 三万円

※徳島新聞賞は徳島出身及び徳島在住者から、徳島文学協会賞は二十五歳以下の応募者から選ばれる。

◆最終選考委員

芥川賞作家 吉村萬吉氏

芥川賞作家 小山田浩子氏

◆発表

二〇二〇年八月

※受賞作は徳島新聞紙上および徳島新聞電子版に掲載

詳細はホームページで

<https://www.t-bungaku.com/shirasagi/index.html>



カクヲタノシム vol.2

二〇二〇年秋、発行予定

《みんなの原稿》

大募集

掲載原稿を募集しています。ジャンル不問。詳しくはメールまたは電話で協会事務局までお問い合わせ下さい。掲載参加料、原稿フォーマットなどを明記した応募要項をお送りします。

■申込締切 二〇二〇年六月末

■入稿締切 二〇二〇年七月末

※参加者全員に一冊無料配布

創刊号をご希望の方は六〇〇円＋税（郵送の場合は送料一八〇円が必要）でお譲りしています。数に限りがありますのでお早めにお問い合わせ下さい。



カクヲタノシム vol.1

第一回 民雄忌 ～北條民雄を偲ぶ会～

徳島文学協会と阿南市は、作家北條民雄の命日にあたる十二月五日を「民雄忌」と命名するとともに、北條民雄が亡くなって八十三年目の二〇一九年十二月七日、彼の故郷の阿南市において初めて作家北條民雄を偲ぶ会を開催した。

会場となった阿南市ロイヤルガーデンホテルには五十人を超える関係者が詰めかけ、多数のマスコミ報道関係者も取材に訪れた。

冒頭、阿南市の表原立磨市長、松重和美四国大学学長、岡本光雄徳島新聞社理事らが来賓挨拶を行った。その後、スペシャルゲストとして北條民雄の評伝『火花』の作者でもある高山文彦氏、講談社文芸文庫の『北條民雄小説随筆書簡集』のプロデュースをしたことでも知られる批評家の若松英輔氏、芥川賞作家の吉村萬吉氏の三人が「北條民雄の人と文学」というテーマで鼎談を行った。

高山氏は学生時代に「いのちの初夜」を読んで衝撃を受けたと振り返り「ハンセン病の人たちは社会から無価値とされてきた。北條はそれを嘆きながら、生きていることそのものに辿りついた」と語った。

また吉村氏は「いのちの初夜」を初めて読んだ時は怖くてたまらなかったと述べた。北條を「ものすごく中途半端なところでぶら下がったまま恐怖を見つめている。本当の文学者の姿だ」と語った。

一方若松氏は「北條の作品を味わうだけで

なく、我々がどのように後世に伝えてゆくかが重要である」と述べた。三人とも北條作品の普遍性を強調した。当日は北條民雄の大甥にあたる、七條寛氏も挨拶をされ会場が温かい拍手で包まれた。

来場者からは「民雄忌 ～北條民雄を偲ぶ会～」の継続的な開催を強く望む声が多数聞かれた。

この模様は後日徳島新聞にも大きくとりあげられ、また毎日新聞では全国に報道された。

本企画は今後も徳島文学協会の重要な活動としてぜひ継続して開催していきたい。本年十二月にも第二回の開催を予定しているので会員の皆様にもぜひご参加いただきたい。



新しい講座をご紹介します

スペシャルな朗読会 「ヨムヲタノシム」

声に出して読む音読は、黙読とは違った読書体験ができます。朗読の基本テクニックを紹介した後、自分の好きな作品を順に読み、朗読を楽しむという講座を開催しました。

昨年の夏創刊したみんなの文芸誌「カクヲタノシム」を鑑賞する会が開けないか、という事で朗読会「ヨムヲタノシム」が二月十九日に開催されました。

「カクヲタノシム」が書くことを楽しむための文芸誌ならば、「ヨムヲタノシム」は読むことを楽しむための朗読会。でもそれだけではありません。聴くことも楽しんで欲しいということで、自分が朗読をしていない時は、目を瞑り、読み手の声に耳を傾けます。みんなで鑑賞した後は、感じたことを思い思いに話し合いました。

文学協会初の朗読会とあって参加者に楽しんでいただけるか心配していましたが、フリーアナウンサーのなかむらあゆみさんにアドバイザーを務めていただき、滑らかな進行で、皆さんの緊張もほぐれ、和やかに始まりました。

今回、歌人や児童文学作家、ソプラノ歌手など多才な方々が参加され、短歌や詩、童話などの創作作品を作者ご自身が読まれるという贅沢な趣向でした。その

「とこ」：古代エジプト文明の知恵の神「トート」に由来する。



講座の様子

あゆみの朗読をYouTubeで公開させていただきます。



イベント案内

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、イベントの開催方法を変更します。

これまで皆さまと直接お会いして開催するイベントを行ってきましたが、昨今の状況を考慮し、イベントの開催方法を変更いたします。

ご質問にメールで回答する「創作質問箱」や通信制の小説広場のほか、「Zoom」を使ったオンライン講座の開催を予定しております。オンライン講座は開催日時が決まり次第、ホームページなどで随時お知らせいたしますので、ぜひご参加ください。

徳島文学協会ホームページ イベント情報
<https://www.t-bungaku.com/event.html>



【通信】「小説広場」～みんなで合評会～

小説広場～みんなで合評会～が、**会員限定の通信制の合評会**になりました。上達への第一歩は、ある程度小説のわかる人に作品を読んでもらい、アドバイスを受けることから始まります。また他者の作品を客観的に読むことで気づくことがたくさんあります。【通信】小説広場に合評作品を提出された方には、『みんなの感想』と文学賞受賞歴のあるアドバイザーによる**推敲原稿**を郵送させていただきます。

- **申し込み** 協会メールにて受付します。●会員番号●お名前を明記し、ワード形式の原稿が受信できるEメールアドレスで、お申し込みください。
- **参加費用** 合評希望の方は**1作品2,000円**(400字詰原稿用紙10枚～50枚まで) それ以外の方は**無料**で月1回合評作品をお送りします。
- **アドバイザー** 久保訓子、藤代淑子、阿部あみ

会員限定

『創作質問箱』

創作する上でのご質問やお悩み事をメールで受付しています。特に『小説の書き方に関すること』、『パソコン操作に関すること』この2つに関しまして、担当者がわかる範囲内でお答えさせていただきます。

society@t-bungaku.com
件名に『創作質問箱』と明記ください。
詳しくはHPをご覧ください!

※回答までに数日かかる場合がございます。
お電話でのご質問はご遠慮下さい。



徳島文学第3号発刊!

徳島から発信、自由で新しい文芸誌のかたち『徳島文学 2020 Volume3』発刊。吉村萬壺さん、大滝瓶太さんらを筆者に迎え、徳島文学協会メンバーの作品、さらに第2回阿波しらさぎ文学賞受賞作も掲載しています。

会員の方には1冊進呈いたします。

ご購入希望の方は、県内の主な書店やアマゾンでも販売しています。(5月上旬発売予定)協会メールでも注文を承っております。HPをご確認下さい。

ご購入希望号数(「2018 Volume 1」「2019 Volume 2」「2020 Volume 3」)とご購入希望冊数、郵便番号・住所・名前・ふりがな・電話番号をメールにご記入ください。
本体価格 1,500円+税。

ご入会や講座のお申込み・お問合せは徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103

TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com <https://www.t-bungaku.com/>